



「人並みに 若菜摘まんと 野に出でし」 (高浜虚子)

「世間でみんながやっているように、春の七草を摘もうと野原に出ましたよ」



新しい年が始まり、半月余りが過ぎました。「今年1年は、〇〇な年にしよう」という新たな気持ちが続いているのでしょうか。この気持ちを持ち続けることが、今年一年を充実した良い年にするにつながります。

災いを転じて福となす ～ピンチをチャンスにするために～

日本に新型コロナの初感染者が出て、3年になろうとしています。その間、大きな感染の波が8回来るなど（これから、大きな波があるかもしれません）、なかなか収束の兆しが見えません。これまで、様々なことが制限されたりして大変でしたが、今まで何度もパンデミックを乗り越えてきた人類です。あと数年もすれば乗り越えることができるはずです。できるだけ早くそうなることを願っています。

これまで、子どもたちの学校生活における様々な活動が制限されてきました。全校児童・生徒が集まる機会の減少、修学旅行をはじめ様々な行事の中止、授業での活動（接触を減らす、大きな声を出さない等）、給食時間の黙食、休み時間での遊び方等の対策が取られてきました（今では、これらの取組もやや緩やかになってはいますが・・・）。そんな中で、子どもたちは大変な3年間を耐えてきたと言えるでしょう。そのような大変制限された中でも、前向きにとらえ、様々なことにチャレンジして成長した子どもたちもたくさんいます。

かつて、世界中がパンデミックの時に、素晴らしい発見をした人がいます。

・・・ニュートンはケンブリッジ大学がペスト大流行で休校となった一年半の間に、故郷で思索を重ね、微分積分と万有引力を発見した。誰もがニュートンになれるわけではないが、外出を控える間に読書文化が復活すれば「災いを転じて福となす」となる。・・・
・・・「これまで起きた楽しいこと、うれしいこと、嫌なこと、悲しいこと、辛いこと、それらすべてはあなたを造ったものであり、あなたの一部であり、あなたの宝物なのです」（往生極楽院の阿弥陀如来の手前に書いてあった言葉）・・・

「日本人の真価」 藤原正彦 著 文春新書

まさに、ニュートンは「災いを転じて福となす」を実践した人と言えるでしょう。

私たちは、ニュートンのような大発見はできなくてもいいのです。制限された中でもできることはたくさんあります。また制限された今だからこそ見えることもあります。今の状況に臆することなく、どうしたらコロナ禍での状況を福に転じることができるかを考えた行動をすることが大切なのではないでしょうか。

そして、コロナ禍での辛いことでも宝物と思えるようにするため、また「災いを転じて福となす」ためにどのような心持ちで生活すればいいのかについて、改めて子どもと一緒に考えてみませんか。